

## 第 65 回横須賀市文化振興審議会 議事概要

日 時 平成 29 年 10 月 27 日(金)15:30～

場 所 横須賀市役所 302 会議室

出席者：秋岡委員、菊地委員、崎山委員、西堀委員、蛭田委員、藤井委員  
山本委員、吉田委員、若江委員

傍聴者：なし

事務局：文化振興課 福原課長、松田課長補佐、遠藤主任

---

- ・事務局より、傍聴者なしとの報告があった。
- ・事務局より、定足数についての報告があり、委員定数 9 名のうち 9 名が出席しており、過半数を満たしているため、本審議会が有効に成立している旨の報告があった。
- ・規定により、吉田委員長を議長とし、次第に沿って進行。

## 【審議事項】

### 次第1 平成28年度文化振興基本計画の進捗状況について

事務局から資料1により説明を行った。

#### ○質疑応答

- 委員 平成26年に計画ができたときに力作の体系だなと大変感心したところでした。  
今回、26、27、28年度の進行管理表を見ると、隣の欄にコピー＆ペーストされているような印象を受けました。文化振興条例第1条に文化の継承が大事とされていますので、継承されたり維持されたりしていると思うのですが、発展や創造の部分が弱い流れになっているように思いました。  
そんな中で、スクラップビルドしてくると変わってくると思うのですが、新しい案が入ってくるということがあまり感じられないところがあります。  
例えば、15ページのインターネットギャラリーの開設とありますが、開設というのは一回してしまえば毎年開設するわけではないと思いますので、できた時にはインターネットの時代かと思ったのですが、年々、陳腐化してくる可能性があるのも、こういったものは特に早く継承していかないと、市役所のホームページに作品が載っているということが魅力的なことかというのは、みなさんの考え方が変わってくるものだと思います。  
横に同じ予定が並んでいるのは少しまずいのではないかなと思いました。それが見せていただいた時の一番の印象です。
- 事務局 同じような文言が並んでいるということですので、表現の部分は今後、考えていきたいと思っています。同じ項目である場合も、参加人数や内容などは変わっている部分も多々あると思います。そのあたりも書き加えていけるように考えていければと思います。  
事業のところについては、廃止の事業は資料のとおりでございますが、新しい事業については補足できていないというのが正直なところでした。  
この計画は8年という長い計画になりまして、今年がちょうど折り返しの年になります。市としても、事業全体の見直し、来年度から実施計画を作る年ということで新しい計画を作ることになりますので、その状況を見て、新たに文化振興基本計画に掲載する事業はそこに盛り込んで、ご覧いただけるようになるかと思っています。
- 委員 文言の問題ですが、5ページ、文化の次世代の「継承」、文化的

遺産の「継承」という文言が気になります。「継承」という言葉が過去も未来も同じように使われているように思うのですが、過去を引き継ぐという意味はわかるのですが、未来に引き継がせるというというのが少し気になります。

委員 「継承と発展」というのがいいのかもしれませんが、この場合は「継承」という文言にも発展の意味合いも含むのではないかと思いますので、バトンタッチというような意味でいいのではないかと思います。強く出そうとすれば、発展という言葉を入れるのもいいとは思いますが、文言として落ち着きが悪くなりますね。

委員 26年に最初に計画が出た時に一番強く意見を申し上げたのは、「Ⅱ つたえる」の中の「1 郷土の歴史」の公的なメジャーな部分と「2 地域の身近な歴史」の身近なところなんです。メジャーな部分と身近な部分を対比させてしっかりやっていくということがこれからは大事ではないかと申し上げました。「地域の身近な歴史や文化の継承」というとてもいい言葉を入れていただいたと思っております。

今回見てみますと、ずっと変わってはいないとは思いますが、「2 地域の身近な歴史」の中身の方が少し見劣りをするかなと思います。「市民文化資産の指定」、「近代歴史遺産の活用」とありますが、本来どちらかと言うと近代歴史遺産の活用は1の公的な「郷土の歴史」の方に入るのではないかと言う気もしますし、(1)と(2)で重複している項目もありますし、「2 地域の身近な歴史」の部分の項目の整理がまだ足りないのかなと思います。

その時、お手本として取り上げられていたのが、「くりはま歴史絵本」の取り組みだったと思うのですが、それがなくなってしまったということで、身近な歴史の企画が先細りという印象を受けます。もう少しテコ入れをして、各コミュニティセンターを中核にして、もう少しいろいろなことができるのではないかと思います。そのあたり、コミュニティセンターにある程度自主的に任せと言うことになるのか、文化振興課が関わってっていくのかはわからないところではあります。

例えば、昔の地図を作るとか写真展、お話の会、学問的な講座、昔の道、古道に光をあてるなどそれぞれのコミュニティセンターで頑張れば、身近な歴史の部分はもっと膨らんでくると思うのですが、そのあたり、各コミュニティセンターと連携できないものかと思いました。

事務局 各地域での文化的なもの、歴史的なものの掘り起こしということは、各地域に地域文化振興懇話会と言いまして、市が先導して

行政センターごとに組織を設けて行っていた時代もありましたが今はもう休止しています。

今は、各地域に地域運営協議会と言うものがあります。それは歴史や文化だけではなく、地域の問題を地域で解決しようという取り組みとしてやらせていただいています。その中で、地域の文化や歴史を掘り起こそうという動きも若干あります。その部分について、地域での創造ということをやっていますので、市の方からお話をしづらいというところもあります。

一方で、地域の歴史の取り組みとして、例えば、浦賀の方で浦賀奉行所が2020年に開設300周年を迎えるということで、そういった地域の動きを市の方でバックアップ、市の方でもう少し大きく取り上げようという連携をしております。

コミュニティセンターの事業についても、地域が独自にやっているものなので、市から言うことがなかなかできないというところもあります。

こちらも同じように横須賀製鉄所150周年の事業を行っていたときは、関連した講座を取り上げてくださいということで話をしたこともありますので、そういった経緯もありますし、地域の歴史や文化の講座等についても働きかけができると思いますので、考えていきたいと思えます。

委 員

平成28年度の進行管理結果報告書ですが、今、29年の10月ですよね。若干遅いかなという印象を受けています。28年度が終わった段階の評価ですが、まもなく29年も終わろうとしていますし、30年度の予算を作る時期に来ているように思います。その中で、2年前のものを検討しているような気がしますし、もう少し早くしないといけないのかなという印象を受けます。はまゆう会館の問題ですが、改善しなければいけないということは市民にも浸透しているかと思えます。「指標」の「今後の方向性」という部分が、「向上」になっている。全体を見れば、「向上」ということだと思えますが、このあたりはどう見るのでしょうか。

事 務 局

開催時期のご指摘については、遅くなっていることはお詫びしなければいけないと思えます。どうしても評価の仕組みとして、庁内の検討機関に諮る必要がありますので、年度が終わってすぐにはということではできません。ただ、10月と言う時期は遅いと思えますので、少しでも早く開催できるように努力したいと思えます。

はまゆう会館については、市長が代わり、施設配置計画は白紙に戻りました。前回では廃止となっていました。一度、立ち止まって見直すという市長の方針になっていますので、使うのであればこの「向上」という形で活かさせていただきたいと思

ます。

委員 いろいろなことを横須賀市がやっていることは理解できて、とてもよかったです。2点、お伺いしたいと思います。

1つの課がやっている取り組みが多く、計画の評価や実績を見ると開催することに意味があって、具体的にどういった方向性でやっていくのかが不明瞭だなと思いました。例えば、オーケストラの鑑賞会であれば、どういった目的で行っているか、それに付随して新しい取り組みがなされるのかが見えないと思いました。

37ページの「くりはま歴史絵本」、「猿島公園専門ガイド」の事業が終了してしまったのはどういった経緯で終了してしまったのか、復活する可能性はあるのかというところを伺いたいです。

事務局 それぞれの事業の目的や内容を理解することが難しいというのは、これだけ事業名を並べていてもわからないというのはそのとおりだと思います。このあたりはどれくらい加えられるかわかりませんが、事業の概要を入れられるようにすればいいかなと思いますので、そのあたりは研究させてください。

くりはま歴史絵本については、当初からこれくらいの冊数で時期でということでした。次の代わりのものについては今のところ情報がありません。来年度からの新しい事業を確認していくなかで情報があがってくれば、検討していきたいと思います。

猿島公園ガイドの養成については、養成のプログラム自体は続いています。その主体が市からガイド協会に移ったということで、市の事業ではなくなりました。市としては行っていませんということですので、どういう表現で書くかについては研究させていただきたいと思います。

委員 三浦按針について詳しい方からお話を伺いまして、先日、上地市長にもお話する機会がありました。三浦按針は江戸初期から横須賀にゆかりのある人物と云うことですが、三浦按針に関連する事業がいろいろな部署で行われていることと思います。

ANJINプロジェクトについて拡大して、関係部署も一本化して、大きく継続的なものとなれば、横須賀の歴史的な検証や観光や人口増加の起爆剤となればと思っておりますので、情報としてお伝えいたします。ANJINのフェスティバルはいくつかに分かれているということだと思いますので、市の中でも一本化するということも考えられればいいのではないかと思います。

- 事務局 ANJINプロジェクトについては、この計画ができた時に、盛り上がって何かをやっていこうという時にできた事業の名称です。主に塚山公園や逸見あたりの地域を中心に盛り上がりが出てきているところであると思います。そういった部分を含め、市としても考えていきたいと思っています。
- 委員 市役所だけでなく、町の中でも会がいくつかできてしまっていて、それでまとめられないというところもあると思います。市でやっているのは、塚山公園の按針祭をやっているところから始まって、そこから火がついたのですが、町の中が分かれてしまっているので、町の中がうまく一本化されないと市はなかなか難しいのかなという気がします。
- 委員 2020年が没後400年ということですよ。平戸の方がサミットで盛り上がったと聞いているのですが。
- 委員 サミットに関しては、平戸や伊東はもう少しのめり込んでいますが、横須賀は少し弱いです。按針に関しては、地域の問題も少し絡んでいますね。
- 委員 サミットは臼杵もということでしたが、臼杵とはどのような関連がありますか。
- 委員 リーフデ号が最初に着いたところが臼杵でした。その後、浦賀に来てということですね。
- 委員 2点、お伺いします。  
3ページの「障害者の文化活動」というところです。学校教育の中で、養護学校についてはどういった形で文化的な支援をされていますか。  
例えば、4ページの「学校教育における文化活動の充実」の項目に小学校、中学校は入っていますが、養護学校は入っていません。養護学校への支援をされているのであれば教えていただけますか。  
61ページの「よこすかカレーフェスティバルの来場者数」のところですが、参加者も多くて素晴らしいなと思うのですが、どこまで広げる予定、計画がありますか。対外的に横須賀のイメージを聞くと、必ず出てくるキーワードが2つありまして、カレーとハンバーガーです。嬉しいのですが、商業ベースの文化であって、例えば、三浦按針ですとか横須賀製鉄所など、今は商業ベースに乗らないものというのは対外的にとっても弱いと思います。三浦按針を知らない方もとても多いですし、このバランスをこれからどうするのか、広げるために商業ベースに乗せ

るのか、そうではなく、商業ベースに乗らないところも注力する  
のか、そのあたりを教えてください。

事務局

養護学校の支援については、市長部局の方に養護学校から文化的な取り組みの要請等はない状況です。ただ、教育委員会で小中学校と同じような形で芸術や伝統芸能に関する取り組みなされていると思います。実態がまだわかりませんので、調査したいと思います。

カレーフェスティバルについては、歴史から派生した食文化と言えるかもしれないですが、横須賀市の命題として、観光立市というものを打ち出していますので、多くの方に来ていただきたい、横須賀と聞かれたときにカレーと言われるくらいに浸透してきましたので、それをフラッグシップ的なイベントということで毎年開催しています。人数については順調に増えています。三笠公園のキャパシティを考えながらやっていくことになると思います。今後の広がり次第かと思います。なぜ横須賀でカレーなのかというところもきちんと伝えていくことができればと思います。

事務局

養護学校、ろう学校の件ですが、養護学校と特別に行う事業は説明したとおりですが、例えば、近代歴史遺産のツアーでは、小中学校と養護学校やろう学校にも案内は出しています。また、子ども向け小冊子については小学校6年生全てを対象としていますので、養護学校にも配布しています。

委員

「4 文化振興の指標」の部分、評価が甘いです。全く甘くて、何をやっているのかと思います。

実際に54ページの「コミュニティセンターの定期講座の参加者数」、24年度を基準にしていて、28年度は1万3000人となって減ってきているのに「向上」となっています。え？と思いますよね。実際に減ってきています。コミュニティセンターの利用者などは減ってきているのは間違いないと思います。

その下の「市民大学講座の受講者数」も24年が4,300人だとすれば、28年は3,400人ですから「向上」しているのかということになると思います。

55ページ、「海外高校生との交流人数」も派遣は16人で、受け入れはないわけです。いろいろな事情はあるのかもしれませんが、こちらが扉を開いていないと受け入れはできないわけですよね。それでも「向上」というのはなんだろうというように思います。

それらのことをいろいろ考えると、評価が甘いのではないかと思います。

それから、一番問題なのが57ページ、「II つたえる」という部

分の「国際式典の参加者数」ですが、毎回問題になりまして、町内会長や自治会長、民生委員など何らかの役職に就いている人は市からハガキや招待状が来る人はいいのですが、場合によっては、一般の方を少し排除するような傾向があるように見えることがあります。

式典は囲われた中でやっていくのかということについて、文化振興の基本計画をやっていくのであれば、そのあたりを考えないといけないと思う。40万人の都市ですから、国際式典が800人くらいというのはどうなのかな、もう少し見直しをしなければいけないのではないかと思います。

事務局

指標が甘いというご指摘ですが、今後の方向性については、この計画を作った時にどういった方向で考えているかという視点で考えています。伸ばしていくのか、現状維持でいくのか、実績の数字が並んで実際の傾向がおおよそわかってきましたので、今いただいたご意見を踏まえ、関係各課に伝えていきたいと思えます。

国際式典の参加者数ですが、考え方についても式典を担当する国際交流課に伝えまして、捉え方を考えていきたいと思えます。実際に式典の意味合いを考えると、もっと多くの方に参加いただくという趣旨もあると思えますので、それもお伝えしたいと思えます。

委員

56ページ、横須賀美術館の「子どもを対象としたワークショップ」ですが、平成24年度の実績値が41回、去年は21回しかやっていなかったとなると、「維持」なのか「向上」なのか「低下」なのかよくわからなくなってくる。ただ、実際に美術館は年間10万人以上来ていますし、子どものワークショップ以上のことをやっているし、評価も高いと思えます。ただ、この数値だけを見ると美術館が何もやっていないように見えてしまうのではないかと感じます。

もう1点、障害者との関わりの部分ですが、養護学校だけでなく、各学校には特別支援の子どもたちもいるわけなので、その子どもたちに対してどう展開していくかという評価もありますよね。文化振興行政の行政間の連携と評価を考えていこうという狙いがあると思うのですが、評価の仕方が場合によっては他の行政の評価ではよくやっている、高いにも関わらず、こちらではそうではない、甘いというように捉えられてしまうものもあるのではないかと思います。

生涯学習センターに行く機会があつて、生涯学習センターもいろいろ講座をやっていますし、職員の研修もやっていますし、資格のある職員を複数置いていますし、利用率も高いと思えますし、市民大学講座は数十年やっているという実績があるにも



関わらず、この評価の実績を見ると何もやっていないように見えてしまいます。文化行政の中で評価をどう見ていくか、その手法を考えられればいいのではないかと思います。

事務局

美術館の子どものワークショップの部分については、実績値を取り上げた時に何かのきっかけがあったと思いますので、その点を場合によっては補足させていただく、その後の回数を見てみると「維持」という状況かと思いますが、確認させていただき、誤解のないような表現にしていきたい。

障害者に関する取り組み、こちらで補足できていないという部分があります。計画で深く取り上げられていないというところもありますので、実績には出てこない部分もありますが、ご意見があったということで承知しておきたいと思います。

委員

27 ページ、国際コミュニケーション能力の育成の中の A L T はアシスタントランゲージティーチャーということによろしいですか。評価が A となっていますが、A L T を設置したことを言っているのか、生徒の能力のことを言っているのか、必ずしも比例しませんよね。

総合高校の高校生はオーストラリアに行っていますよね？言葉の問題で言うと、オーストラリアの英語はかなり違うと思います。これまで、イギリスやアメリカへの派遣はないのでしょうか。オーストラリアへの派遣にどういうメリットがあるのかなと思います。

事務局

オーストラリアの学校の件については、確認してお伝えしたいと思います。

この評価は予定に対しての実績の評価ですので、A L T を設置しているということで A という評価になっています。A L T については、現地の方に来ていただき、その国の文化も吸収できていると思います。

委員

横須賀美術館の観覧者数は 10 万人を超えて、横須賀美術館は頑張っているが他の美術館からは館長不在というのは困ったものだという言葉聞いています。

美術館連絡協議会というものがあるのですが、通常は館長が出てきて発言をしたりするものですが、館長がいないということで、横須賀美術館の存在は薄いということも聞くことがあります。

館長職というのは横須賀美術館の格も上がると思いますので、館長不在の状況を打破した方がいいのではないかと思います。

委員

博物館も館長がいませんよね。市立の博物館、美術館に館長が

いませんので、そこは考えないといけない問題ですよ。

事務局 館長というポジションはあり、教育委員会の職員が兼務しています。美術館は初代に館長がいましたし、博物館も以前は研究をしている館長がいました。現在は行政の職員が兼務しているということです、ご意見があったとことを教育委員会へ伝えたいと思います。

委員 評価について、SとBは数が少ないですよ。どうしてSなのかBなのか、特記事項の欄に理由が書いてあるとわかりやすいのではないのでしょうか。

事務局 わかりにくい部分だと思いますので、付記できるようにしたいと思います。

委員 43ページのブレスト市を含む交流の関係ですが、ヴェルニーの母校からインターンを受け入れたということですが何をしたのですか。

事務局 横須賀市の国際交流課に入りまして、自治体に興味があるということで、インターンとして市の業務を行っていただきました。

委員 博物館の学芸員からレクチャーを受け、その内容をフランスに戻って伝えるというようなこともしたようです。

委員 150周年の時に、エコールポリテクニクの学長・副学長とお会いして、卒業生たちが海外で同活躍しているかということもとても気にしているようでした。エコールポリテクニクで日本展をやったことがありました。また、式典でも東大に留学をしている学生が式典に参加するなど日本に関心を持っているようでとても良いなと思っています。

## 【審議事項】

### 次第2 その他について

報告や質疑応答は特になく、審議会は終了した。